

図版12



B地区 1号ロームマウンド

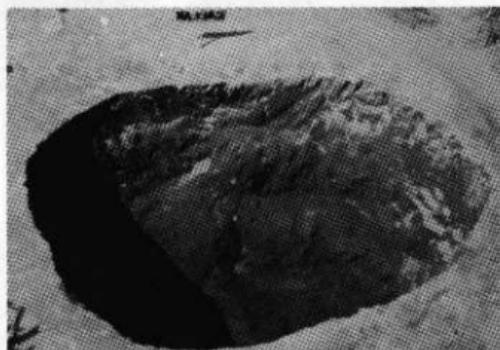


B地区 1号集石土堆

图版13



A地区1号土壤



A地区2号土壤



C地区排水址

図版14



発掘地に嵌入れをおこなう



グリッド設定し調査



住居址測定中

発掘風景(1)

図版15



土壤・柱穴址調査



発掘参加者



発掘参加者

発掘風景(II)

ま　　と　　め

西ヶ原遺跡の調査結果の詳細については前述のとおりであるが、調査を通じて知り得た二・三の問題点を記してまとめとしたい。

西ヶ原遺跡は国鉄飯田線田島駅の南東に展開する東西約400m、南北約450mの広大な面積をもつ遺跡である。今回の調査では全地域の分布調査の成果に基づき、A・B・Cの3地区を調査することとした。A地区においては縄文中期後葉の焼石群と木炭分布の状態、弥生後期の住居址について調査を行った。B地区はA地区的北東、一段低い段丘上に位置している地域で、ここは平安時代の住居址及び土壤時期不明のロームマウンドを調査した。C地区は国鉄飯田線にそった西の桑園地帯に広がる地域で古くから縄文後期の遺跡として知られている個所である。今回の調査では排水造構と縄文中期末葉の土器片を検出しだけに終った。以上は各地区的調査の結果の概要を述べたが、これら調査のなかで問題となった点について述べてみると、まず、A地区的焼石群と木炭の分布の調査である。今回の調査では縄文中期末葉の遺物は検出されたが住居址はついに発見されなかったので、住居以外の生活造構の調査に重点をおくことにした。

調査の目的及び調査の方法については第Ⅲ章第2節に述べられている通りである。調査の結果¹⁴Cの測定値は1…Charcoal from Nishigahara site B. P年代(1950年よりの年数)4430±130 Sample No.A (NA) 2480 B・C. 同Sample No.B 4590±110. 2640・B・Cという結果を得た。Sample No.AとSample No.Bとの差は160年となる。こうした結果からこの造構の使用期は160年間にわたっていたこととなる。今回の調査ではSample AとBの2 Sampleのみの結果値で処理したが、調査中はジョレン掛けした各層のSampleは採取してあるので後日問題になる点が生じれば測定は可能である。このほか、樹木炭化物以外の植物の炭化物も採取したSample内には含まれていることも予想されるので、後日改めて調査をしてみたい。そのほか、焼石炉の性格については残念なことであったが明らかにすることできなかった。

弥生後期の住居址は今回は一軒のみ発見できたが、これはおそらく本住居址が調査区域の東端に近い場所にあたっていたもので、集落の中心は軌道寄りの湧水に近い周辺に分布しているものと考えられる。

B地区。本地区からは平安時代の住居址が主なものである。この住居址は柱穴が竪穴内ではなく壁外に設けられているのが特徴である。この期の住居から竪穴内から壁外に移される例が増している。このことは建築上重要なことである。柱穴は幾度か掘られていて、建物の規格を知ることは困難であった。今回の調査では1号住居址1軒のみであったが、遺物の出土状態から西方向に集落は分布しているものと考えられる。

C地区からは、近世の排水造構のみで他に造構らしきものは発見できなかった。

今回の調査で特に取り上げたのは、西ヶ原周辺遺跡の分布調査である。調査の結果は末尾7表の西ヶ原附近出土遺物一覧表及び31図の遺物の拓本と36図石器実測図に示されているから参考に

していただければ幸である。中世陶器は出来るだけ多くの方々に見ていただくよう、カラー印刷にした。また陶磁器一覧表から中田島・牧ヶ原を中心とした遺跡から発見した遺物を分類して記述したので活用願いたい。

本報告書の作成にあたり、木炭の年代測定を担当された学習院大学教授木越先生、中世陶器の分類に当られた瀬戸市歴史民俗資料館長宮石宗弘先生には特別の御指導をいただいたことを厚く紙上をもって御礼を申し上げる次第であります。また、横浜国立大学生大平聰、静岡大学生小池幸夫、立正大学生三沢恵の諸氏の協力は調査に大きな力となった。上伊那地方事務所耕地課、長野県教育委員会、地元の皆様の御協力を心から感謝申し上げます。

調査団長 友野良一

西ヶ原 長野県上伊那郡中川村西ヶ原遺跡

昭和54年7月

発行 中川村教育委員会
長野県上伊那郡中川村

印刷 新製版
飯田市常盤町飯田商工会館内